



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第99号

2021. 7.31

ピアソン便り

発行人：福井 洋之（理事長） 編集人：伊藤 悟（理事）

NPO 法人ピアソン会事務局
(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

Tel. FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前9:30～午後4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp



ピアソン記念館は、旧ピアソン邸改修工事を1970（昭和45）年9月から始め、1971（昭和46）年の5月31日に開館式を行い、その年の10月1日に「ピアソン記念館条例」が制定され、正式な記念館として誕生致しました。開館30年後の2001（平成13）年には、北海道遺産第5号に選定され、今年で北海道遺産としての20周年を迎えます。

ピアソン師の故郷のエリザベス市との姉妹都市交流も、

今年、ピアソン記念館開館50周年の年です！

一昨年の2019（令和元）年には提携50周年を迎え、エリザベス市からはボルウェッジ市長夫妻ほか10余名の訪問団を記念館に迎えました。更に、当時の駐日大使ハガティー氏と家族5名も迎え、ピアソン夫妻の業績を大使と家族に紹介しました。

左の写真は、ハガティー駐日大使と家族、エリザベス市からの訪問団とボルウェッジ市長、そして辻北見市長、当会理事長の吉田邦子、背後には等身大のピアソン夫妻の写真を配置しての記念撮影写真です。



♪♪♪ 種のことなら、よっしーへ!!

あなただけの、個性のあふれる、お菓子づくりの楽しさを、みんなと共有したい。そんな思いで、よっしーは、お菓子づくりの楽しさを、みんなと共有したい。

種あつしー 種けおめがねよっしー

Y090-0043
北見市北三東西3丁目
TEL:0157-57-3664
定休日/毎週木曜日
営業時間/10:00-19:00



第31回文化サロン de ピアソン

～モイストポップリ講習会～

◎開催日時：2021年9月12日（日）

午前10時～12時（10名）、午後13時～15時（10名）

◎開催場所：ピアソン記念館2階 北見市幸町7丁目4番28号

◎講師：増井小夜子、

◎参加料：1,500円（材料費代）。

◎問い合わせ：NPO 法人ピアソン会（電話0157-31-1215）電話にて予約受付（先着20名で〆切）

投稿

文責：北原俊之

第4回 ピアソン夫妻の年譜から拾う

七月、八月、夏休みにまつわるあれこれ

夏休み期間
一八八四（明治十七）年
ピアノン青年夏休みをドイツと欧州各国で過ごす（23歳）

大学卒業後にピングリースクールで二年間教職に就きましたが、その一年目の夏休みにドイツを中心にヨーロッパ旅行をしたことを同窓会誌に投稿しています。文学青年を気取っての旅であったことを書いています。

『1882年卒・卒業後三周年同期会集録』（プリンストン大学：1885）
個人消息・動靜

G・P・ピアノン p.27～28
……………昨年一年分の給与総額の半分の額を費やし、昨年（一八八四年）の夏休みの間じゅうヨーロッパを旅行し、大半をドイツのゲッティンゲンで過ごし、ヘルマンとドロテアを気どって、明るい現地人とふれあう中で、生粋のドイツ人のように生活した。〔その後〕オランダ、ベルギー、スコットランドを数日間訪れ、ロンドンにはかなり滞在した。〔最終的には〕米国で、恒久的に生活する

ことになった。文筆家として、米国の文学者数人の伝記を編集することに、私の人生最大の努力を払っていました。（1885.6.1.記）

八月二二日（火）
一八八八（明治二二）年
ピアノン宣教師米国を出帆し日本へ向かう（28歳）。

米国を離れるにあたり、出帆の地までの道のりで各地を旅して、大学同期生と会ったことを報告しています。

『1882年度卒業生 10周年同期会集録』（プリンストン大学 1892）
投稿文（随筆：経歴）

G・P・ピアノン、p.45
……………一八八八年（日本に向かうまでの米国内で）、途中でカンザスシティに立ち寄って、フラック・シンプソンと会い、ソルトレークシティでは、昔からの会社、クリッチロー&マーフィーが、相変わらず定着しているのを見つけてきました。サンフランシスコでは、ピリー・スカダーと波止場でばったり会いましたが、これが、私が故国を離れるに際して、最後に会

った82年度卒業生です。日本に向かう途中には、ホノルルに立ち寄りました。皆さんも日本に来る際には、「ホノルルを」旅程に入れることを忘れないようにしてください。

『田舎伝道者 ピアソン宣教師夫妻』（小池創造著 1967.12）
第一章（三）宣教師として日本へ p.22～23

ピアノンは八月二十一日いよいよアメリカを出帆し、沖へ沖へと深みに向かってこぎ出し日本を目指した。当時船では一か月以上もかかる太平洋を、水と真夏の太陽の輝きに照らされながら遂に約束の地日本についた。その頃は横浜にも秋風が吹き始め、涼しくなる季節となっていた。彼は日本に向う船中で思いめぐらしたことを、晩年次のように綴っている。

「……………（次の項目でこの部分に記載）……………」かくして彼の船は秋風もさわやかな憧れの国日本横濱港についたのである。

ピアノンさん船中での思い
Forty happy years の冒頭

一 日本に来たころ p.1～p.2
月影さやかに、歌を口ずさみつつ、おまえは船の前方デッキにすわっている。舳先はゆるやかに水にひたり、静かな海をかきわけ、一路お前を招くアジアへ向けて進んで

ゆく。母と別れた最後の抱擁がやさしく、また任職式で歌われた「汝われと共にいませば、われ戦いを怖れじ」の讃美歌が勇壮に思い起こされる。お前は長年バラック〔家庭・教会・神学校という兵舎〕できびしい訓練を受けてきた。前途をきり開き、かじをとるのは希望である。お前は封緘命令を与えられ、この上ないすばらしい冒険に挑戦して旅立った。心は平安に満ちている。老練のベテランたちが間もなく出迎えてくれるであろう。お前と同世代の同僚たちもやがて、永遠のみが測ることのできる友情の手を差し延べてくれよう。自分の主人（イエス・キリスト）に最善を捧げる誓いこそ、お前の確信ではなかったか。お前は、主人によつて啓示された神の御旨の中にこそ完全の自由を見出す無給の労働者として、その奉仕に狂喜している。

若者よ、歌いつづけよ、お前の若い日に自分の心を喜ばせよ！
笑うに時があり、泣くに時がある。お前は、はるか彼方に危険な道、暗い谷間が横たわっているとは考えていない。しかし、地平線にはまだ障壁に囲まれた町々があり、アナク人の子孫（巨人ゴリアテはアナクびとの子孫と言われる。民数記一三・三二―三三）が怒り狂っている。

『Forty Happy Years In Japan 1888-1928』（1936刊）『使徒はふたりで立つ

北海道のピアノンばあさん・じいさんの話』（ピアノン夫妻原著／小池創造・小池栄訳 1985.7.31）

七月
一八九一（明治二四）年
ピアノン宣教師
中学校の職を辞する。地域での伝道活動（31歳）。

ピアノンさんが伝道生活を志向して千葉で生活していることを大学の同期生が語り、本人も語っています。

『1882年度卒業生 10周年同期会集録』（プリンストン大学 1892）
個人の投稿文（随筆：経歴）

ポール・マーティン p.39
……………ジョージは、健康で、日本語と英語で宣教のための刊行物を編集するなどして、仕事に励んでおり、また、外国人としても英語話者の外国人としても彼一人しかないような、人口が百万人ほどの地域で暮らしているのです。その地での仕事は、公立の学校で教えることです。このような（日本人ばかりの地に）たった一人身を置いて仕事することを選んだ目的は、彼が、日本語を徹底的に身につけようとするためだったので。最近聞いた話では、彼は、家

事をしてもらったための日本人家政婦を雇って、靴下を全て繕ってもらっているとのことでした。

* * * * *

.....「明治学院」大学で一年あまり教師をしましたが、その後、主として日本語に熟達することを目指して、語学学習と練習のために、東京郊外の公立学校で職を得ました。この学校を退職したあとも今もって、私は日本語学習を続けており、いつか来たるべき日が来ることを願っています。日本語を学習して、日常的な伝道活動をするのに十分な程度までの日本語を身につけることは、極めて難しいものです。

千葉の公立中学校の職を七月で辞め（当時は七月が年度末、九月入学）るピアソンさんですが、次の手紙を読むと、田舎伝道への意欲がうかがえます。また、北海道の話題が出てきていて、「どんな場所にでも行く」決意が表明されています。手紙の原文を再度読み込んでみました。

ピアソンの手紙 No.7

千葉町、千葉（県）、日本

1891年5月14日

受信 1891年6月

親愛なるドクター・ギレスピー、.....「千葉県での」私たちの伝道活動は順調に進んでいます、

私たちはほぼ毎晩どこかの場所で「伝道」集会を開催していますし、集会には、.....判読不明語.....ではありますが興味を持って耳を傾ける人々が参加しています。「公立中学校」の教師の仕事は、七月に任用切れになるはずですが、その後の身の振り方は「今のところ」確定していません。

（今後の私の活動予定は）次の二つのどちらかになりそうです。まず、一つめは、このケン（県「千葉県」）にとどまり、各地の教会を二〜四週間づつ滞在・援助しながら訪問するというもの。（とても熱心な伝道者である）私の日本語の先生も一緒に行ってもらえば、支援を必要としている各地教会をお手伝いすることができそうですし、ついでに私の日本語の勉強も同時にできるのです。「各地の」天気や気温などがどのようであっても私達が「純」日本家で生活することがなんとかがやきれるならできにかぎりこのような活動をして、旅と短期間の居住【後半は千葉町にも一〜二か月暮らすことになる／房総半島南部の北条や保田は除外する】を、今年の年末か来年の三月まで続けることになるでしょう。

その後の予定は確定していて、伝道局本部あるいは日本の伝道団からの反対がないかぎり、（岩手県）盛岡に行き、ミラー夫妻（オランダ改革派教会）が帰国し不在となる期間の仕事を引き受けることにな

なっています。

もう一つの活動予定としては、教師退職後すぐに、信州の山間地帯の上田に移動し、盛岡で私が必要となるまでの間伝道活動を支援することです。ただ、千葉と上田の間は距離があるので、何かの連絡が来るにも多少遅くなることでしょう。

[今後の活動案 メモ] ※1891年=明治24年

	(1891年)	(1892年)
1. 千葉、学校	: 5月~7月	1月か3月まで
千葉、伝道旅	: 7月か9月から	3月~
盛岡、居住	:	
2. 千葉、学校	: 5月~7月	
上田とその近郊	: 7月から	3月まで
居住と巡回:		3月~
盛岡	:	

北海道のことについては、伝道本部の動きなどが全くわからないため、何も話すことはありません。現実には、本国伝道本部から最新の連絡をいただいているため、タムソン博士とご家族のこと以外は様々な伝道計画をまったくわかっていない状態です。ですから、新規の活動拠点のことについて私が語れることはまったくありません。一宣教師として、盛岡から緊急の

招きを受けている現状を考えると、今のところ新規活動拠点に関しては考える余地はありません。ただし、この上なく困り苦しんでいる場所があるなら、私はそれがどんな場所であろうとも気にせず向かう気持ちだけはあります。とはいえ、今は、この県「千葉」にとどまり私の力を試してみたいのです。その中で、できる限り時間をみつけ日本語を「さらに完璧なところまで」学び身につけたいのです。

七月七日（金）
 一九一六（大正五）年
 野付牛婦人矯風會 第二回
 野付牛婦人矯風會 第三回
 一九一七（大正六）年七月三日（火）

遊郭誘致を阻止した矯風會の最初の成果を記録の中に見ることが出来ます。
記録を原文のママ掲載します

〔第二回〕
 〔大正五年〕七月七日
 ピヤソン邸にて第二番目の婦人矯風會の集を聞きました 出席者十二名。

初めに讚美歌二百七十番を歌い、ピヤソン夫人の聖書朗讀、使徒行傳九章二十七節、後夫人の祈あり、書記が名簿をよみ、つづいて記録朗讀、会計の報告
 □、例会の集會日はきめるは

ずでありましたが九月まで決まぬ事に致しました。
 會長から會へ會計の帳面、書記の帳面及び印を寄附して戴きました。會長が陳状書について、ふ云ふ報告をしました。六月二十五日から今日七月七日まで十二日間、陳状書を宅廻りをして只今三百三十五名の名を書いて戴きました。其働をした者は、主に五人の會員即ちピヤソン夫人、山田夫人、加藤夫人前田静子其他助けた男子は、松浦様、三中隊、アイノ内六十二人、瀬浪様、一中隊、端野、十八人、菊田様、似頃、五十一人、山田様、鐵道部、四十二人、残り

は町からピヤソン博士が御働き下さいました。
 會長は近日札幌へ行かれる時に札幌で陳状書の一つを上るはずに成って居りました
 内山大臣には軽井沢から上る事に成りました。成大なる働は神の御力によりて出来ました。
 研究会で遠軽の救世軍大尉田中氏を依頼して公娼問題について力あるお話がありました。

〔第三回〕
 大正六年七月三日 教会堂に於て
 出席者 六名
 新入會員一名 木村ユキ
 現在會員総計 二十四名
 第一 礼拝會 司會ピヤソン夫人
 ヨシユア記 九章一〜九
 第二 事務會

.....

- 一、名前支呼
- 二、記録朗読 及び 承認
- 三、會計報告 及び 確定
- 四、事務報告 (會長)

- 一、此町に再び遊廓の建たぬ事を廓清会に依頼すること
- 二、野付牛支部の名によりて町會議員に廓清会雜誌を送ること

- 三、公娼全廢 五錢袋 運動資金を集めること
- 五人にて凡そ百袋を分配す

可決

第三 感謝 祈禱

散 会

右記から六年後に再度、遊廓誘致が持ち上がったのでしようか、再び反対請願が提出された記事が『新札幌市史』に書かれていました。

日本キリスト教婦人矯風会本部は、大正四年(一九一五)の第二三回大会で「今後六年間に、公娼制度の廃止を期する事」を決議し、公娼全廢運動に取り組むこととなる(日本キリスト教婦人矯風会百年史)

道内でも(大正)十二年、野付牛町(現北見市)遊廓設置請願書が道庁に提出されると、野付牛婦人矯風会会員たちが遊廓設置反対の署名活動を行い、道庁当局へ認可請願書棄却願を提出し(北タイ大12・5・14)、これにより同町には遊廓は設置されなかった。……

『新札幌市史第四巻通史四』(1997.3) 第八編第六章第四節三、女性の自覚的運動への発展 p.694 ~ p.696

七月三十一日(月)

一九三九(昭和一四)年
ピアソン宣教師フィラデル
フィアで召天(78歳)

ピアソン忌

逝去を伝えるエリザベス市の新聞は、『田舎伝道者』に一部が記されていますが、改めて原文を完全に訳してみました。

ピアソン記念館蔵目録に掲載の記事

■エリザベス市の新聞記事

1939年8月2日付け

ピアソン博士の葬儀日程決まる

40年間日本で伝道にあたった
隠退宣教師

牧師ジョージ・ペック・ピアソン神学博士(隠退の長老派海外派遣宣教師、月曜夜フィラデルフィアで逝去)の葬儀が、金曜午後、オグデン葬儀場(ノース・ブロード通り沿い、パーカー通りかど ※現在はこの地に無し)にて、第一長老教会チャールズ・アレグザンダー・ロス牧師の司式により執りおこなわれます。埋葬はオレンジの墓所にて近親者のみで行われます。

ピアソン牧師は、宣教地日本に40年間滞在しましたが、一貫して本籍を当市ノース・ブロード通り926番地においてあります。この家には現在兄デイヴィッド・H・ピアソンさん、姉ミス・メアリー・H・ピアソンさんが住んでいます。

ピアソン牧師は、亡くなる二週間ほど前から、フィラデルフィア在住の医師で義理の弟のR・マックス・ゲップさんのお宅に世話になつていましたが、糖尿病とその合併症で亡くなりました。

ピアソン牧師は、当市の生まれ育ちであり、故デイヴィッド・H・ピアソン牧師とキャロライン・ペック・ピアソンさんの御子息です。ピングリー・スクールで学び、そしてプリンストン大学を一八八二年に卒業しました。その後キリスト教伝道を志してプリンストン神学校で学びました

ピアソン牧師は、フィラデルフィア出身で、同じく日本に渡った宣教師のミス・アイダ・ゲップさんと結婚しました。アイダ夫人は、一昨年亡くなりました。

ピアソン牧師は、長期に渡る日本での伝道活動の中で、日本語が堪能であるため皇室の外交部付き通訳に招聘されました。しかし彼は、自らが選んだ伝道活動に専念することを希望して、この話を断りました。

ピアソン牧師は、八年前に宣教師を引退して以来、生活のほとんど

の時間を文筆活動にあて、種々のキリスト教小冊子を書き上げました。彼は、米国に戻つてすぐフィラデルフィアに居住しましたが、当地にも頻繁に足を運んでいました。

彼は、長年、当市のウエストミンスター長老教会の会員でした。遺族として、当市のノース・ブロード通りの兄と姉のほかに、同じく当市に住む妹ミセス・キャロライン・ビゲローさんがいます。

死因は糖尿病の余病

死因は糖尿病の余病

夫人没後、夫人の祈りの研究に手を入れ、編纂して出版を終え、最期の未完の著作「贖罪論」にとりかかったところから、かねてより患っていた糖尿病から余病が併発し、一九三九年七月三十一日(昭和十四年)、フィラデルフィアの夫人の実弟で医者R・マックス・ゲップ氏の家で召天した。享年七十九才。数えの八十才。引退帰国後、十一年目であった。

『田舎伝道者』ピアソン宣教師夫妻 小池創造者

亡くなるまで数日の病氣とは？

亡くなるまで数日の病氣とは？

この夏の間、残念なことに同窓会員の二人が逝去しました。牧師ジョージ・P・ピアソン神学博士は、数日の病氣の後、七月三十一日逝去。ウォード・C・ピーバディ師は、長期の闘病生活ののち九

月十一日逝去。お二人とも、「親友のあった」同期の方々から偲ばれることでしょう。「プリンストン・同窓会・週報」一九三九年九月二日付け

葬儀はオグデン葬儀場(エリザベス市) 従つて、召天したのがフィラデルフィア市、葬儀はエリザベス市、埋葬はオレンジのローズデール墓地ということになります。

※オグデンの葬儀場とは

エリザベス市生まれのフランク・クラーク・オグデン(1859.08.11 ~ 1946.08.08)が、異母兄弟のハロルドと共同で経営していた葬儀場。場所は、ピアソンの実家に近いノース・ブロード通り666にあった。現在は、銀行が建つてゐる。Webの情報をもとに北原が作成

葬儀の様子

ピアソンの葬儀は、極めて厳肅、かつ驚くほど簡素であった。たまたま米国遊学中で晩年のピアソン師の側近くいた生月前氏の直話によると……集つた人たちが十五、六名。賛美歌は一つ。ピアソンについて何も語られず、葬儀は二十分位で終わり、司式も葬儀屋牧師によつてなされた。日本で伝道した日本語のできる宣教師が、生月氏に日本人がこの葬儀に出れたことはよかつたと言いつただけである。……

『田舎伝道者』ピアソン宣教師夫妻 小池創造者

「ニュージーランドからの便り」第28回

ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏



2021.5.31

◆メッセージありがとうございます。北見の春の兆しが嬉しいですが、月食が見られて良かったですね。私はファンガヌイで良い眺めができました。

◆木曜日（5/27）にファンガパラオアへ帰るドライブの天候は最高でした。島の中央にある山々の



ルアペフ、ンガウルホエ、そしてトンガリロは新雪を頂き、殊の外素晴らしい眺めでした。写真添付します。

◆昨日（5/30）は、シドニーからちよつと戻った甥のために、姉夫婦宅でスペシャル・ファミリィ・パーティを開きました。コロナウイルス発症前以来の初めてのことで、甥は、今日シドニーへ向かっています。

2021.6.18

◆皆さんからの誕生日メッセージ、ありがたく嬉しく思いました。コロナ感染症の時勢にもかわからず、ご健康であり、何よりです。ワクチン接種が進みますように。

◆火曜（6/15）の夕方、姉夫婦宅に弟も来て、ちよつと早い誕生日祝いをしてくれました。デザートには、姉特製のパッションフルーツババロワが出されました。

◆昨日（6/17・誕生日）は楽しい一日でした。ヴェエラダから見えた朝の虹を送ります。先日、庭木を剪定しておいたので、いつもより開けた風景が見えるでしょう。過去何年にもわたって、皆さんから贈られた日本関係の素敵な本を見返して楽しみました。最近も広重の東海道五十三景（説明付き）を開き、作品の中に、芭蕉も似たような旅をしていたことが想像で

きました。その本は、1994年6月16日の誕生日に頂いたものでした。それぞれの方から親切な添え書きがあり、その折の二枚の写真もありました。みんな、ずっと若かった！ 分かち合った素晴らしい時代の懐かしい記憶が呼び戻され、いろいろなことを含めて、心から感謝いたします。皆様のご多幸お祈りいたします。

2021.7.17

◆写真と記事、メッセージをありがとうございます。良い夏の季節に、北見では自然災害などありませんように。ここニュージーラン



ドでは冬型の天候になり、今日は湿度も高く、風も強いです。
2021.7.22

◆返信ありがとうございます。書道の練習を毎日続けています。昨日は、大伴家持の和歌でした。

「珠洲の海に 朝開きして 漕ぎ来れば 長浜の浦に つき照りにけり」 お元気でありますように。

開館50周年記念誌 「ピアソン記念館」



今年で開館50周年を迎えたピアソン記念館の記念誌を発行しました。A4版20ページで、表紙はカラー、本文モノクロ仕様です。

非売品での製作で、関係団体や関係者への配布を目的としたものです。

「ピアソン記念館の建設経緯」「復元工事及び改修工事等」「北見国ピアソン夫妻の足跡」「主な展示資料1階・2階」「エリザベス市展示資料室」「ヴォーリズ記念室」「唐笠何蝶記念室」「英文での館内説明文」などの構成です。限られた予算での発行となり部数が限られていますのでご容赦下さい。

教会創立 1900年

日本キリスト教会 北見教会

主日礼拝・毎週日曜 午前10時15分

牧師 森下一彦 (学校法人ピアソン学園北見幼稚園理事長)

〒090-0035 北見市北斗町2丁目1-30

TEL/Fax 0157-23-3361 e-mail k.mori64@outlook.jp

編集後記

暑い夏が続いています。身体には充分気を付けられているとは思いますが、新型コロナウイルス感染防止も充分配慮して下さい。オリンピックも始まり、どことなく落ち着かない日々が続いています。

99号をお届けいたします。行事が制限されていることもあり、開館50周年記念行事は10月以降にささやかに実施したいと予定していますが、詳細につきましてはホームページで案内したいと思います。

世界的に、異常気象が続いているようです。今後、日本もこのような気象現象を受けざるを得ない様な日々になるのでしょうか。北海道にとって温暖化はどのような現象をもたらすのでしょうか。心配です。

(理事兼事務局長) 伊藤 悟